

後期高齢者医療における 歯科医療の果たすべき役割

自立高齢者及び要介護高齢者の健康の維持
とQOLの改善をめざす歯科医療

米山歯科クリニック
米山武義

後期高齢者に対する歯科医療の意義

- 低栄養と誤嚥性肺炎等の予防による健康寿命の延伸
- 食べる楽しみ、話す楽しみの享受によるQOLの改善
- 障害を持った口腔に対するリハビリテーションとしての意義

NHKラジオ 心の時代に出演して 「口は長寿の門」

- 多くのお手紙やファックスを拝読し、
- 一見、幸せそうに見えて、口が思うようにならないことで生き地獄であったりする現実を知らされました。
- このことが、終末期あるいは後期高齢期に本人と家族が直面する本当の苦しみであるように思います。

味覚

ストレスの発散

呼吸への関与

脳への刺激

摂食

免疫物質の分泌

咀嚼

歯と口腔の働き

異物の認識と排除

嚥下

愛情、怒りなどの感情表現

消化への関与(消化液の分泌)

顔貌

構音、発音

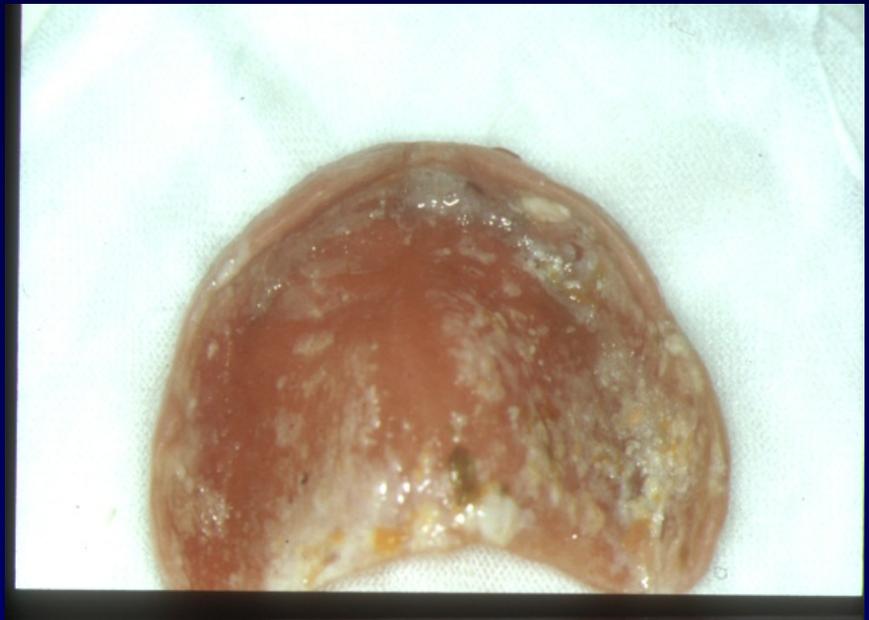
力の発生

平衡感覚の維持

27年前の記憶から 高齢者の口腔が忘れ去られていた



歯頸部に多量の食物残渣とプラークが付着し歯肉の発赤が見られる。



長期間口腔内に入れたままにしてあった義歯の内面。多量のデンチャープラークが観察される。

学んだこと

要介護者の口腔環境は

誰かがケアをしない限り

悪くなることはあっても

自然に改善することはない。

そして心も老化してしまう。

口腔は死を迎えるまで大切な

器官である。

現 状

1. 歯科治療が必要な人は多いが、
2. 治療を受けている人は少ない。
3. 治療とケアが一体になった時の効果について知られていない。

口腔ケアとは

広義には

口腔の持つ、種々の働き(機能)が障害された場合、これらの働きがより健全に機能するよう手当て(ケア)をすること。

狭義には

口腔内の衛生状態を改善し、口腔疾患と口腔内に起因する全身疾患の予防に努めること。

歯科医師とともに歯科衛生士が重要な役割を担う。

専門的口腔ケア(管理)の目的

①感染予防

口腔疾患の予防(う蝕, 歯周病、歯性感染症など)
呼吸器感染症の予防(誤嚥性肺炎など)

②口腔機能の維持, 回復

摂食嚥下障害の改善
口腔内爽快感, 口腔感覚の向上にともなう食欲の増進

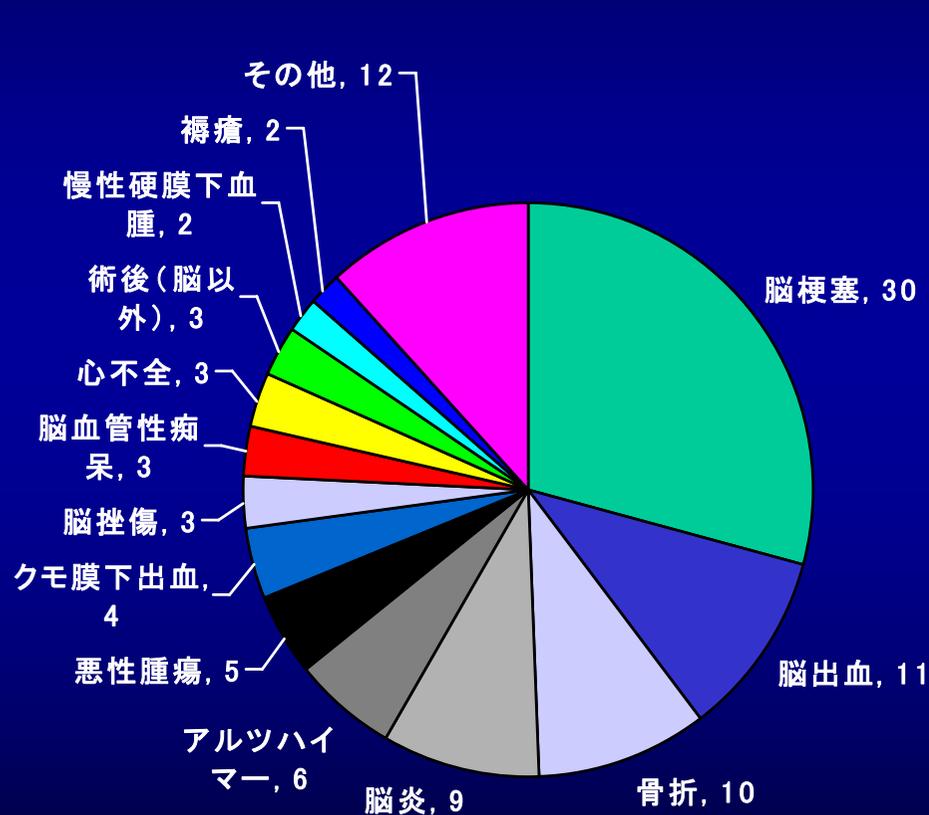
③全身の健康の維持, 回復, および社会性の回復

食欲増進による体力の維持, 回復
体力の維持, 回復に伴うADL向上
言語の明瞭化や口臭の消失などによるコミュニケーションの改善

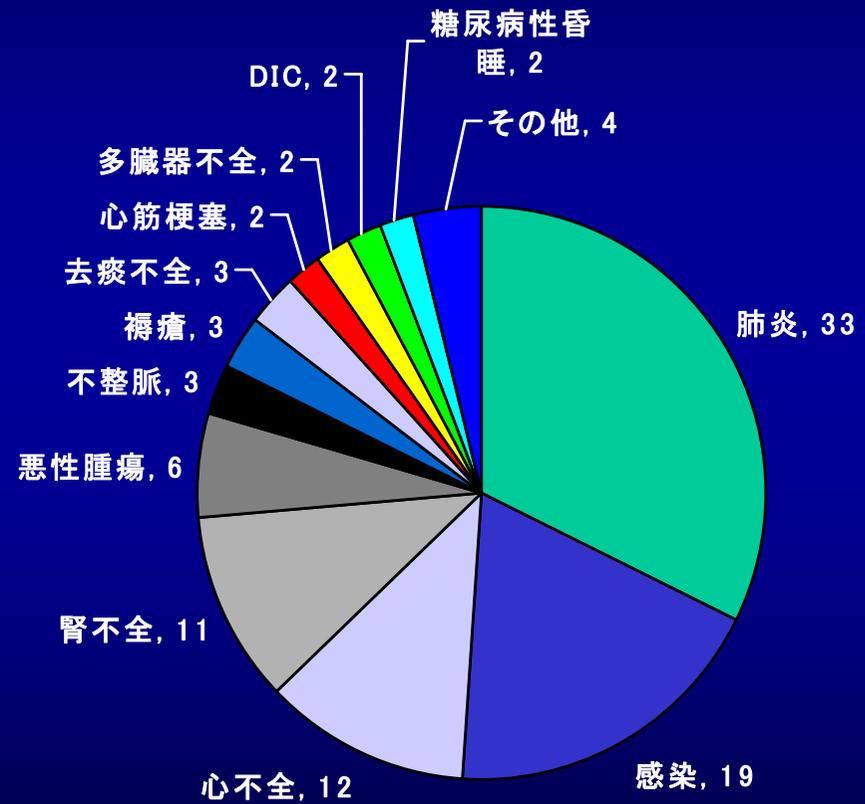
専門的口腔ケア(口腔管理)の内容

- 口腔清掃(バイオフィルム除去)
- 歯石除去
- 義歯の清掃・管理
- 摂食・咀嚼・嚥下機能の回復
- 誤嚥性肺炎、低栄養の予防に配慮した口腔の管理

ある老人病院での死亡者の 主要基礎疾患と直接死亡原因



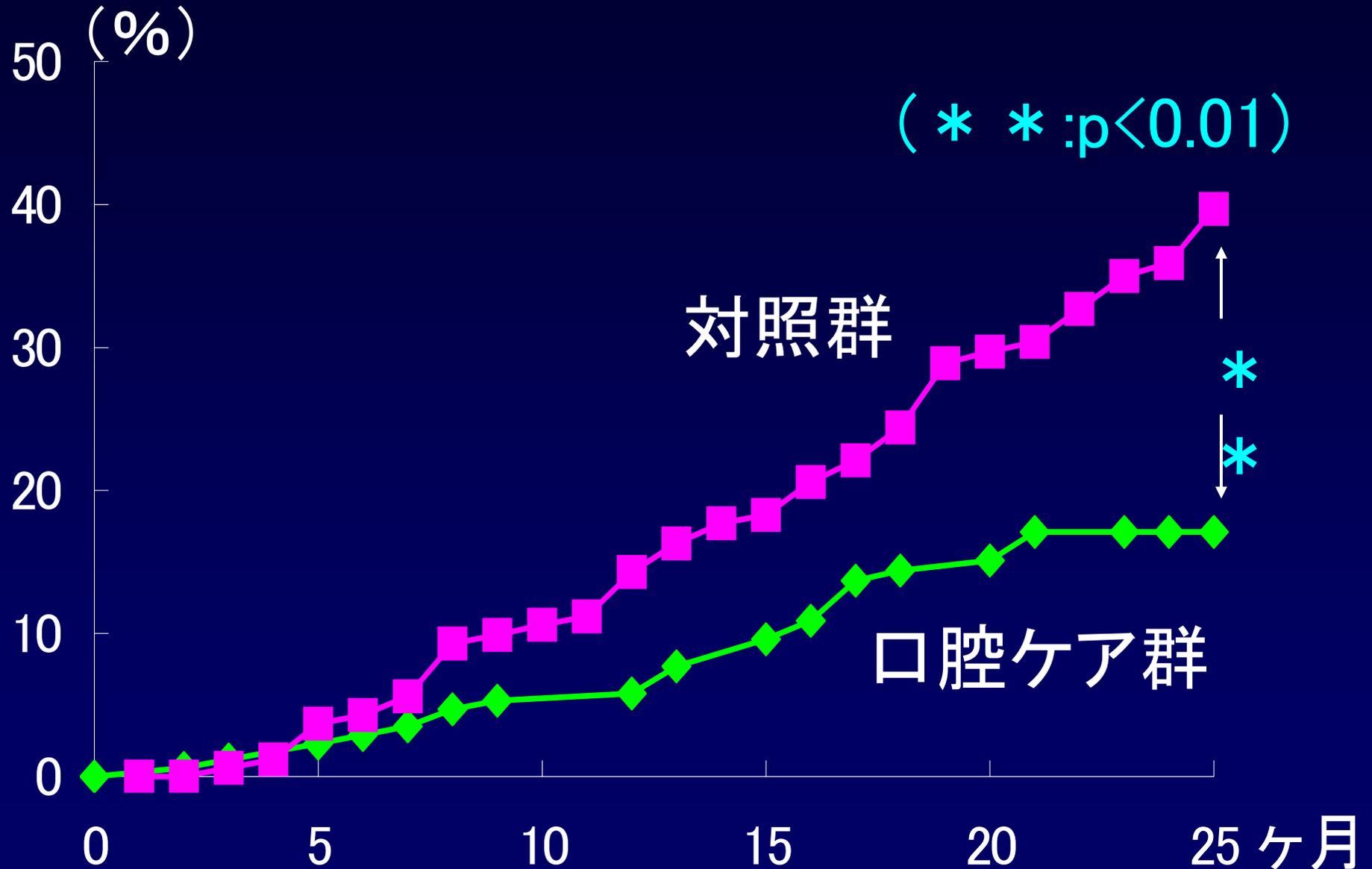
主要基礎疾患



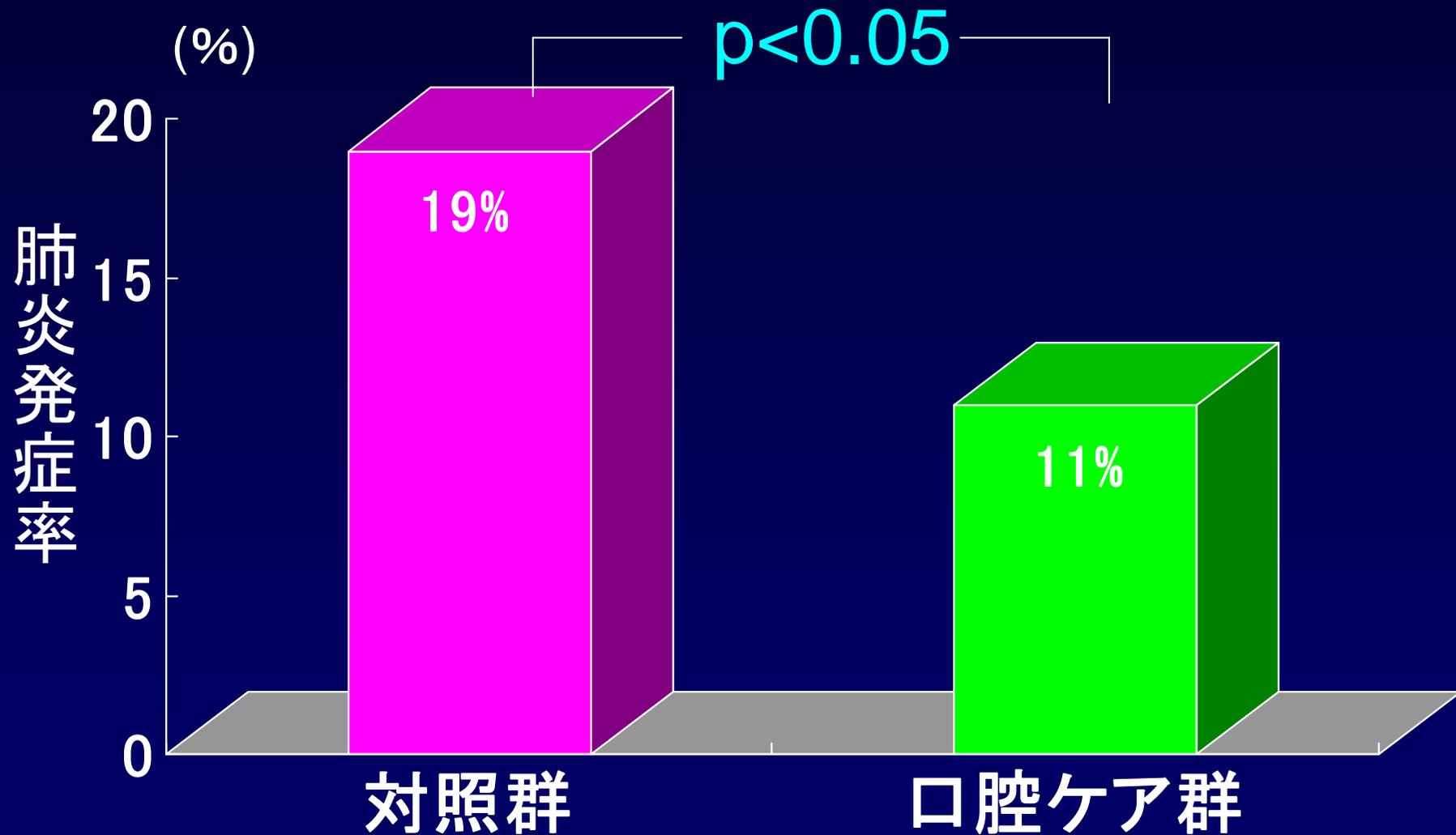
直接死亡原因

東北大学老年・呼吸器内科チームによる研究報告

期間中の発熱発生率

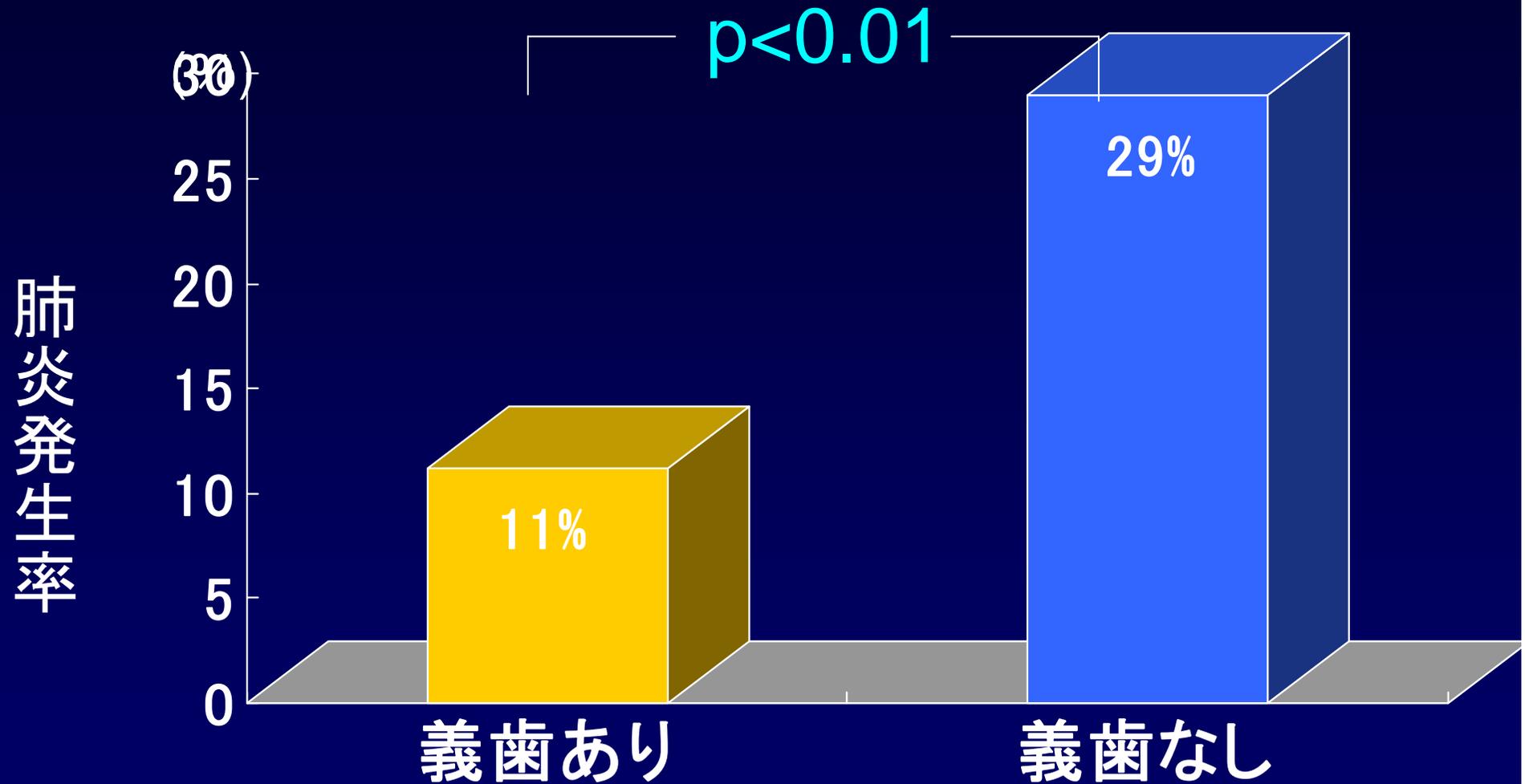


2年間の肺炎発症率



Yoneyama T, Yoshida Y, Matsui T, Sasaki H: *Lancet* 354(9177), 515, 1999.

無歯顎者の肺炎発症率



在宅における家族の悩みと苦しみ

1、病院から帰ってきたけど、家族にとって食事介助がよくわからない。とくにむせが激しい時、不安になってしまう。

2、熱を出したり、食事がとれなくなったら、家では介護が出来ない。そのことを、本人も家族も分かっている。気軽に相談出来る人はいないか。

3. どうしても、胃に穴を開けるのはいやだ。最後まで口から食べさせたい。でも、これからどうしていいか不安で自信がなくなってしまった。

地域における

口腔ケアネットワークの必要性

病院にいる時から(入院時から)、地域で口に関わる多職種ネットワークができていたら、どんなに安心か。

口から食べることの支援と誤嚥性肺炎の予防のために安心のネットワークがほしい。

病院の専門スタッフにとっても退院後、どうなっているか。まったく、その後が、見えてこない。

老人性肺炎の予防と免疫力

1. 免疫力と心の問題

2. 免疫力と栄養の問題

低栄養

- 急性期病院入院中の高齢者で30～40%、在宅診療を受けている人で、32～35%といわれる。

(葛谷雅文、高齢者ケアマニュアル より)